

新型コロナウイルス感染の終息はいつになるのだろう。医療関係従事者の皆様の献身的な働きにより、日本は世界に比べて死者の数は抑えられているようだ。目に見えない敵と対峙しなければならないのはかなりしんどい。こんな時だからこそ不要不急の外出を控え、心静かに落ち着いて、自らを見つめなおし、なすべきことは何なのか、立ち止まって考えるいい機会だと思う。

テレビなどを見てみると、政府の対応に苦言や批判をしているのを見るにつけ、お釈迦様が説かれた「毒矢の譬え」の話をおぼえて出す。これは、論理的に満足のいく答えを聞かないうちは修行に励む気がしないという青年に向かって、お釈迦さんが説いたものだと言っています。『ある時、人が毒矢に射られたとする。ところが、もしもその人が、かけつけてくれた医者に対して、「この矢を射たのは一体だれであるのか。弓はどのようなものであるのか。弦（つる）は何でできているのか。矢羽は、どんな鳥の羽であるのか分からないうちは矢を抜くな」と言ったなら、その人は、それが分かる前に死んでしまうであろう。必要なのは、まず毒矢を抜き、応急の手当てをすることである』と。ああだこうだと考えていても、この世に現実としてある様々の苦しみが消えてなくなるワケではない。重要なことは、その苦しみをどうすれば無くすことができるかという事だ。というのが、お釈迦さんの言わんとするところです。

色々な情報が乱れ飛んでいます、何を信じていいのかわからなくなります。行動が制限された中で不信感が募っていくと不満が溜まります。不満が溜まると怒りが生じます。そして怒りが爆発すると争いになってしまいます。そうすると私たちの住む世界が殺伐となってしまい住みにくい世の中になってしまいます。そのような悪い連鎖を止めるには、正しい知見が必要になってきます。

今はただ専門家の言うことを聞いて、皆で協力して感染を最小限に食い止めなければなりません。我慢するのではなく、違う価値観を見つけ楽しいものにしていく努力をしなければならないのではないのでしょうか。